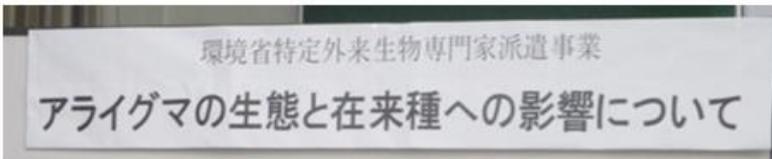


●2024年度の木津川希少種植生調査業務の完了 12月18日(水)

集草作業は残っていた左岸地の城陽市と木津川市(50ha)の集草を行って2024年内に完了いたしました。今年も同志社大学サッカー部ボランティアの関駿太郎さんからボランティア活動として応援するからとの連絡を受けて秋冬の除草作業を11月に完了する事が出来ました。そして12月7日に16人、12月8日に20人がお越しいただきました。そして12月13日には6人の皆さんが駆けつけていただき延べ42人がご参加くださいました。ここでは絶滅寸前種と指定されているレンリソウ・アサザ・フナバラソウ・オオバクサフジ・イヌハギ・ツルフジバカマ・マキエハギ・タコノアシの8種類に加えて、カワラサイコ・タヌキマメ・スズサイコ等木津川で少なくなっているものを保存するための取組として国交省近畿整備局淀川河川事務所の支援を得て里山の会の発足以来活動を28年にわたって継続しています。中心メンバーは長い活動になってきて体力気力の後退で苦労が大変な所へ、同志社大学サッカー部ボランティアの皆さんがお声をかけていただいで、この世から姿を消す寸前の植物の保全に若い力をお寄せいただき誠にありがたいと思っています。お世話いただきました関さんを筆頭に呼びかけに応じてお越しいただいた皆様に心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。活動に参加いただいた多くのサッカー部ボランティアの体験がこれからの人生の困難に立ち向かったときに生きてくるのではないのでしょうか、そうあってほしいと思っています。新しいクラブ員の皆様にも引き続いてのご協力を是非ともよろしく願いいたします。

●環境省特定外来生物専門家派遣事業として「アライグマの生態と在来種への影響について」の会合が開かれました。 12月12日(木)



挨拶された  
村上興正先生



講演された  
栗山武夫先生



午前中は里山農園で実地見学を行い、午後は中央公民館で学習会が開かれ、兵庫県立大学の栗山武夫先生が講演されました。

- ・アライグマは雑色性である
- ・生息密度は解明されていない
- ・アライグマの生息はニホンアカガエルとモリアオガエルの生息に影響を与えているのではないか
- ・両性類の繁殖にアライグマを捕獲することが望ましい
- ・捕獲や点検観察を継続的に記録しデータで推測することが大切だと強調された。



立ち見が出るほどの参加者でした。



## ●冬の昆虫観察会 12月14日(土)午前

7組申込み中、5組参加大人6人、子ども7人、桜谷先生とスタッフ10人で時雨れていましたが、小雨もやんで無事に開催することができました。ゴマダラチョウの幼虫3匹を見つけた荒堀さん、1匹見つけた小西さん他参加者全員に桜谷先生から賞品が渡されました。

全員で9匹のゴマダラチョウの幼虫を見つけ、オオムラサキの幼虫は残念ながら見つけることはできませんでした。草の陰で越冬しているキタキチョウの様子も観察しました。前日に仕掛けたアライグマの2つの檻に2匹のアライグマが入っており皆で見に行きました。

12日に1匹、14日には2匹ものアライグマが檻に入りました。エサはキャラメルコーン（栗山先生によるとアライグマのエサとしては王道）の他に、金田さんがバナナを加えて大成功を続けています。また檻にワラをかけてカモフラージュするのも効果的なようです。



感想文をいただきました。参加者 荒堀さんより

こんばんは、荒堀 N と J の母です。本日は冬の昆虫観察会に参加させていただき、ありがとうございました。

①アライグマが2頭もおりに入っていて、初めて間近で見ることができました。ラスカルが外来種だとは知らず、またその取扱いも時代と共に変わってきたことを知れました。

②成虫で越冬するキチョウを観察し、まるで少し紅葉した葉っぱの様だったので、知らない通り過ぎてしまうなあと思いました。

③オオムラサキ ゴマダラチョウの幼虫探しは、当初まるで探せるのかどうか自信がありませんでしたが、黙々と取り組んだ結果、3匹のゴマダラチョウの在来種の幼虫を見つけることができ、運良く景品を頂く事ができました。サポート頂き、ありがとうございました。

④今日は12月らしい寒さでしたが、炭火で焼き芋を作ってくださっていて、開始早々振るまって頂いたおかげで、お腹も満たされて楽しく参加できました。

企画していただき、どうもありがとうございました。

いつも子どもに本物に触れさせたいと思って参加していますが、結局自分が一番楽しんでます。引き続き、よろしくお願いします。



一夜に2つの檻で捕獲するのは初めての事

## ●イタセンパラの復元を目指す会 12月14日(土)午後

午後は北部住民センターで「イタセンパラの復元を目指す会」が開かれました。イタセンネットの河合先生から、淀川城北ワンドでは、2年連続してイタセンパラが見つからなかったこと、元京都市文化財保護課（オオサンショウウオ保護を担当）の福富さんから京都水族館でのイタセンパラ飼育の可能性の話をうかがいました。その後、中学2年生の中沢君がポレポレランドでの蝶の観察記録の発表をされ、参加の皆さんから大きな応援の拍手をいただきました。中沢君は前日の13日、桜谷先生と背割堤防などへ出かけて、1日中昆虫の指導を受けて、14日の発表も自信をもって臨めたようです。



復元への課題を提起される福富さん



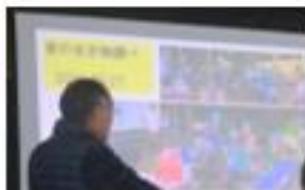
蝶の観察活動を発表する中沢くん



活動発表の 森島さん



有田さん



金田さん



野村さん

